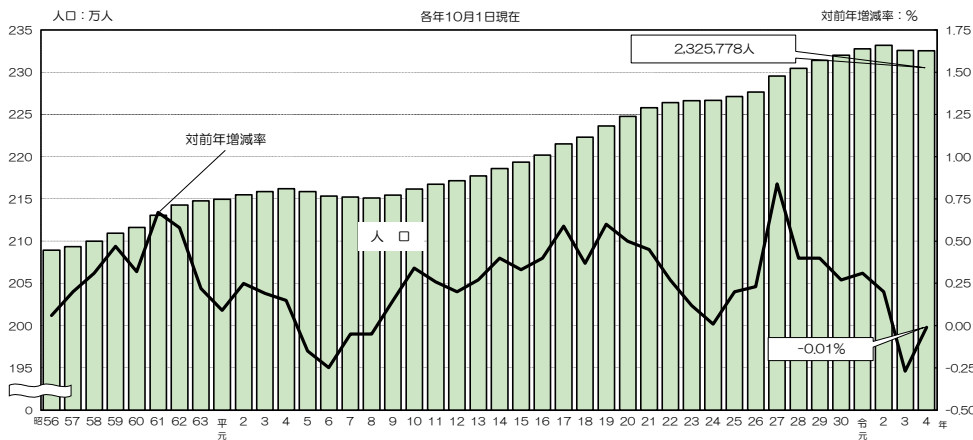


令和 4 年愛知県人口動向調査結果（名古屋市分）「名古屋市の世帯数と人口」

1 人口概況（本編 p1）

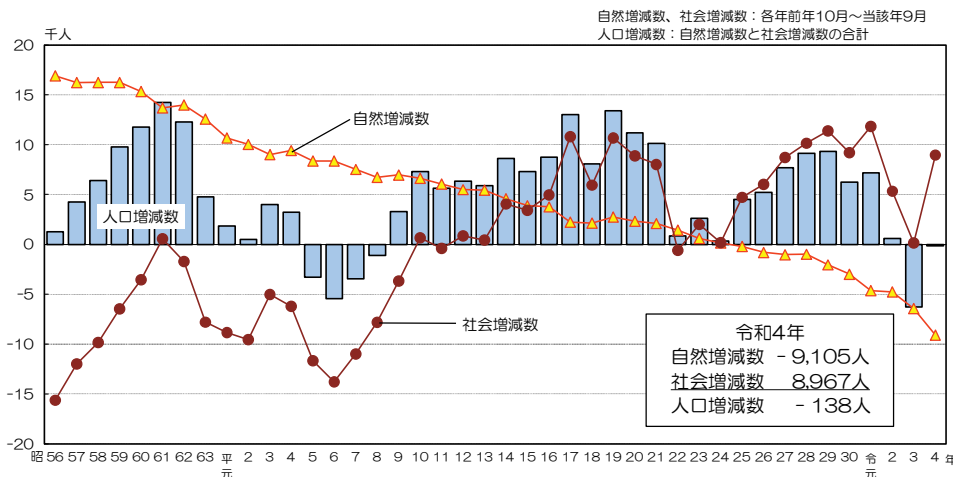
人口及び人口の対前年増減率の推移



令和 4 年 10 月 1 日現在人口
2,325,778 人
(前年比 △138 人)

対前年増減率は
令和 3 年 △0.27%から
令和 4 年 △0.01%へ
+0.26 ポイント

自然増減数、社会増減数及び人口増減数の推移



令和 4 年
自然増減数 △ 9,105 人
社会増減数 **+8,967 人**
人口増減数 △138 人

社会増の大きな拡大により
人口増減数は
令和 3 年 △6,260 人から
令和 4 年 △138 人へ
+6,122 人

(注) 社会増減数には、市外との移動のほか、市内区間移動、その他の増減（職権による記載または消除等による増減、平成 24 年 7 月の法改正に伴う外国人人口の取扱変更による数値変動）を含む。

自然増減数とは？

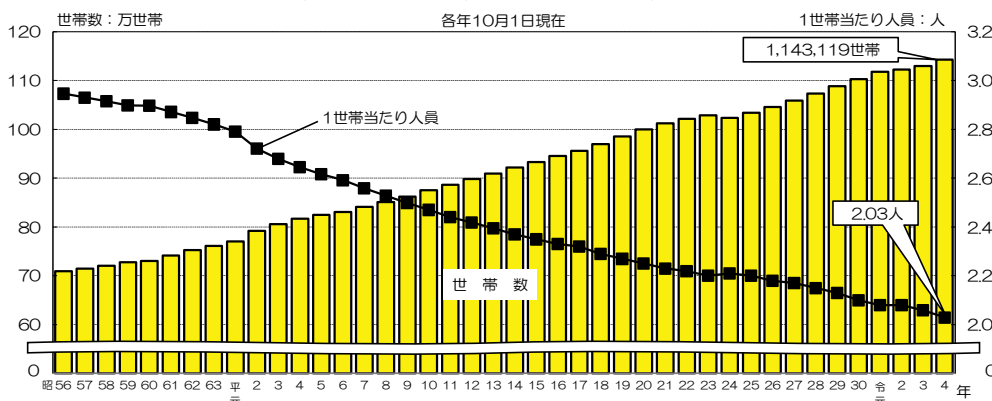
「出生数－死亡数」により求める。
出生数が死亡数より多いとき「自然増」、
またその逆を「自然減」という。

社会増減数とは？

「転入数－転出数」により求める。
転入数が転出数より多いとき「社会増」、またその逆を「社会減」といい、
それぞれ「転入超過」、「転出超過」ともいう。

2 世帯数（本編 p3）

世帯数及び1世帯当たり人員の推移



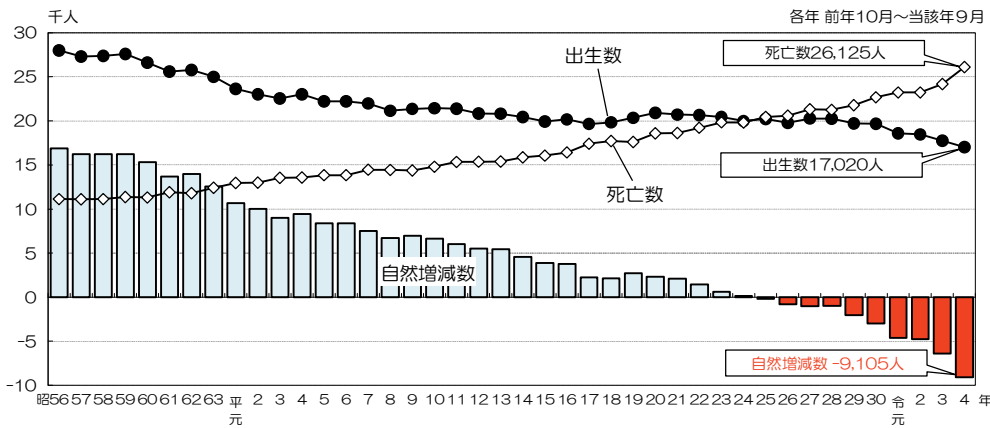
令和 4 年 10 月 1 日現在世帯数
1,143,119 世帯
(前年比 +13,658 世帯)

1 世帯当たり人員
2.03 人 (前年比 △0.03 人)

世帯数は**過去最大**
1 世帯当たり人員は**過去最小**

3 自然動態（本編 p3）

出生数、死亡数及び自然増減数の推移

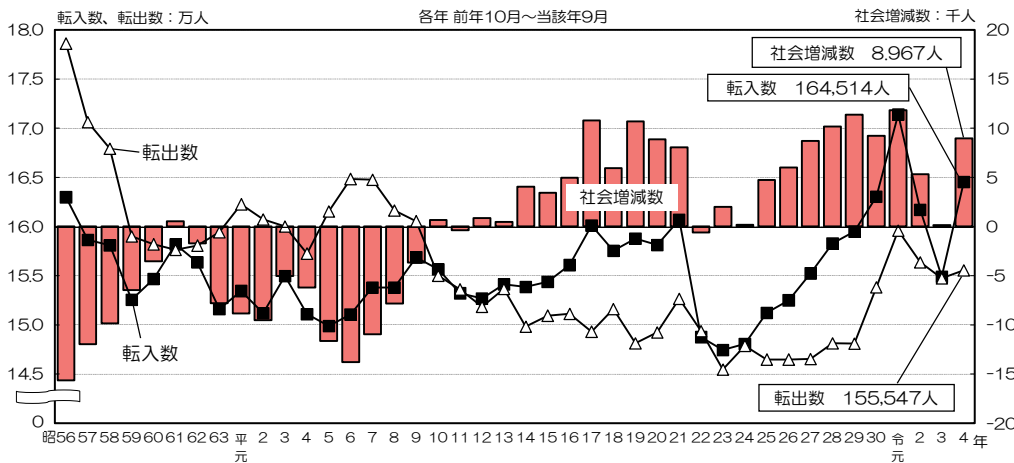


令和4年
出生数 17,020人
(前年比 △737人)
死亡数 26,125人
(前年比 +1,946人)

平成25年以降
**10年連続かつ
過去最大の自然減**

4-1 社会動態（年次推移）（本編 p4）

転入数、転出数及び社会増減数の推移

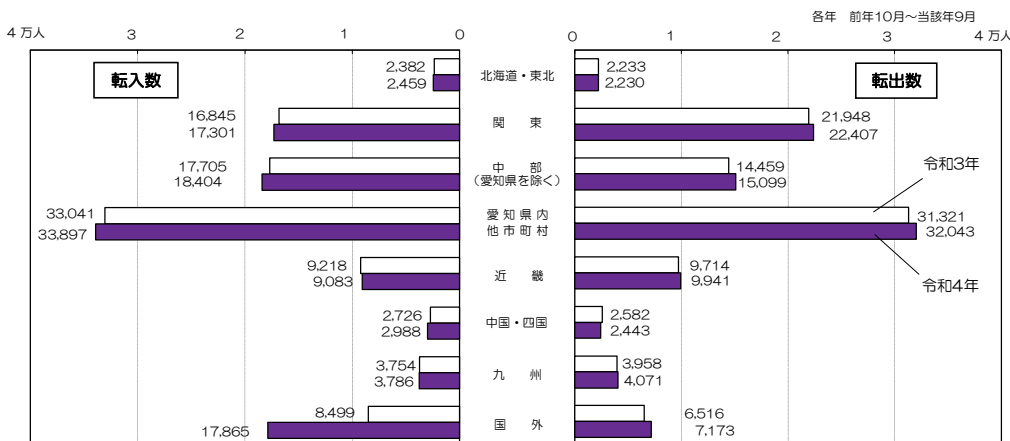


令和4年
転入数 164,514人
(前年比 +9,612人)
転出数 155,547人
(前年比 +807人)

平成23年以降
12年連続の社会増
前年に比べ社会増は大きく拡大

4-2 社会動態（地域別）（本編 p4）

地域別本市への転入数及び本市からの転出数（令和3年と令和4年の比較）

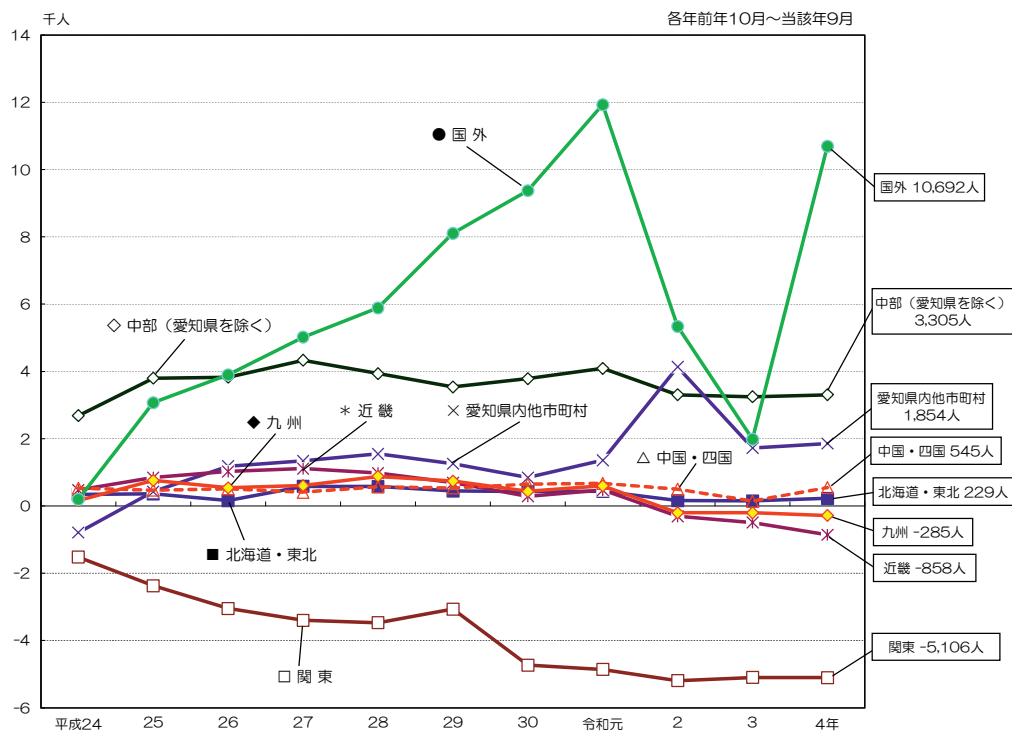


令和4年
転入数は 33,897 人の
愛知県内他市町村が最多
次いで国外

転出数は 32,043 人の
愛知県内他市町村が最多
次いで関東

4 - 2 社会動態（地域別）（本編 p4）

地域別本市からみた社会増減数の推移



（注）平成 24 年 7 月の法改正により、外国人の国外転出の集計方法が変更された。

令和 4 年

地域別本市からみた
社会増減数

社会増は 10,692 人の
国外が最多

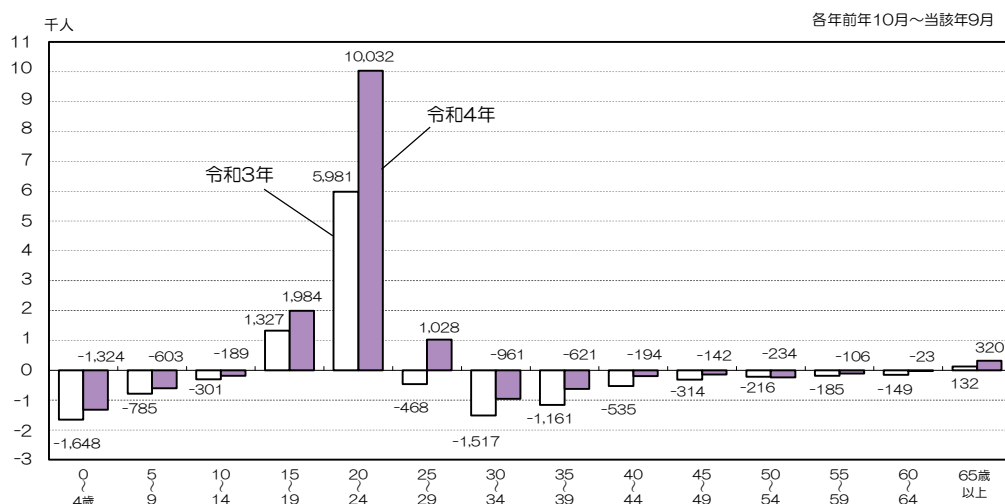
次いで中部(愛知県を除く)

社会減は 5,106 人の
関東が最多

次いで近畿

4 - 3 社会動態（年齢階級別）（本編 p8）

年齢 5 歳階級別社会増減数（令和 3 年と令和 4 年の比較）



（注）市内区間移動、その他の増減（職権による記載または消除等による増減）を含む。

令和 4 年

年齢 5 歳階級別社会増減数

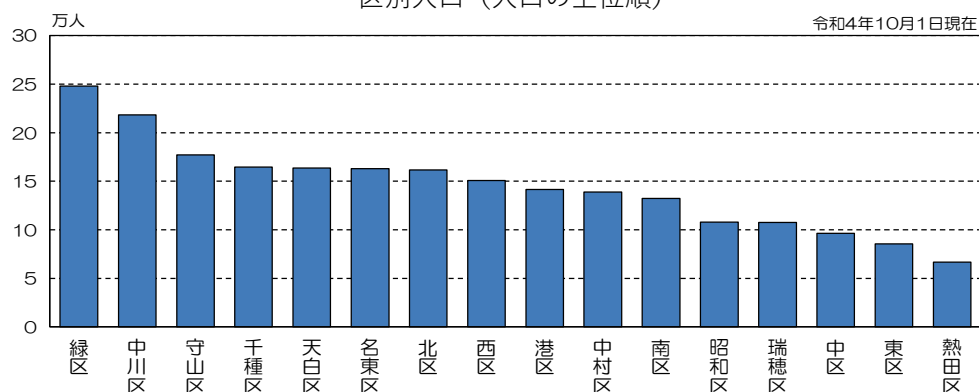
社会増は 10,032 人の
**「20～24 歳」が
顕著に多い**

なお、「20～24 歳」の
日本人・外国人別内訳は
日本人 6,227 人
外国人 3,805 人

外国人については
国外からの転入が
社会増の要因

5 区別動向（本編 p12）

区別人口（人口の上位順）

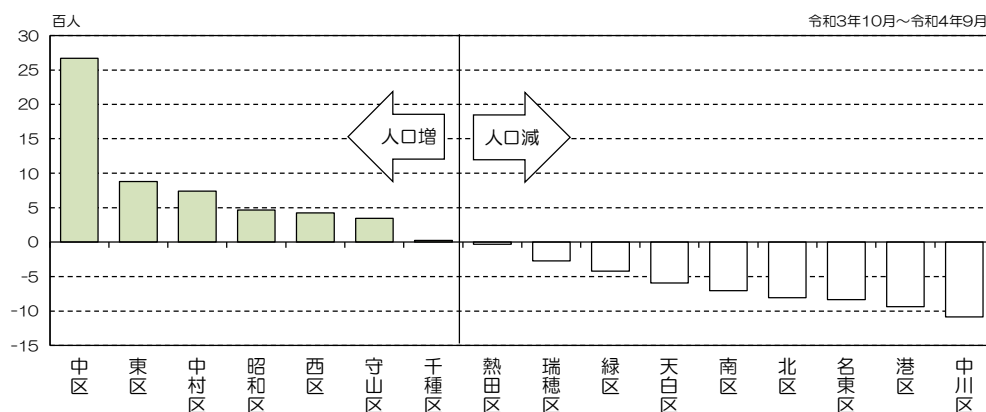


令和4年10月1日現在
区別人口

**人口が最も多いのは
緑区の248,334人**

緑区は平成16年から
19年連続で最多

区別人口増減数（人口増減数の降順）

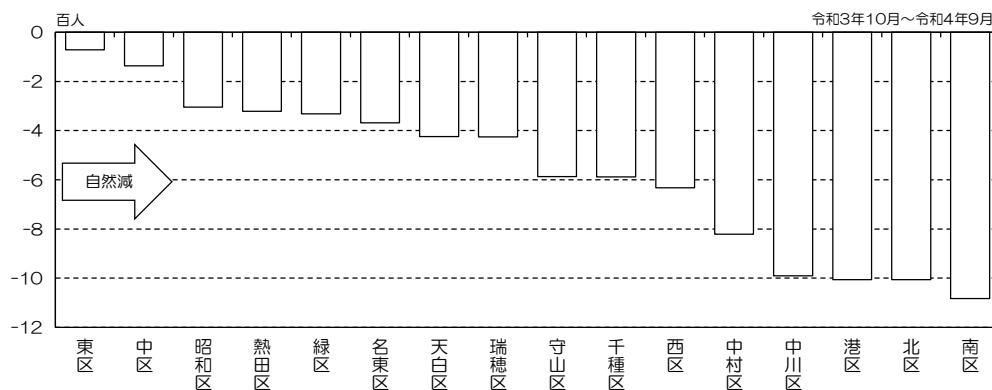


令和4年
区別人口増減数

中区はじめ
7区で人口増

中川区はじめ
9区で人口減

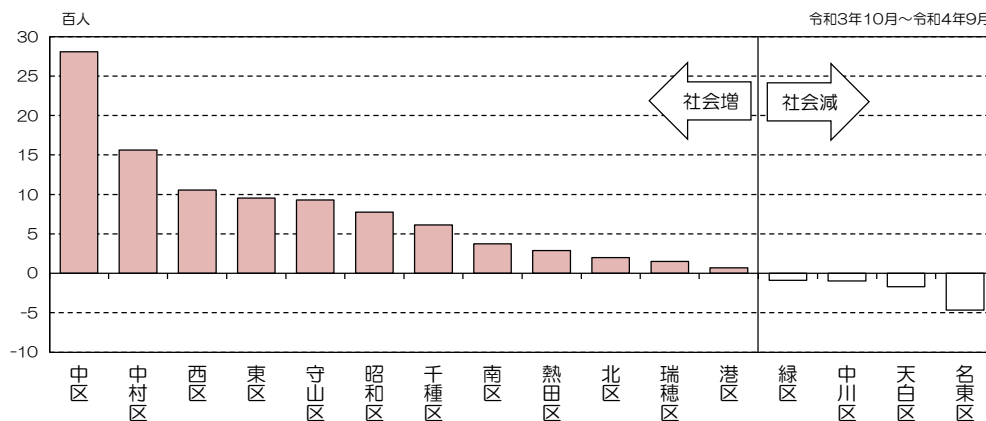
区別人口増減数の内訳① 区別自然増減数（自然増減数の降順）



令和4年
区別自然増減数

全ての区で自然減

区別人口増減数の内訳② 区別社会増減数（社会増減数の降順）



令和4年
区別社会増減数

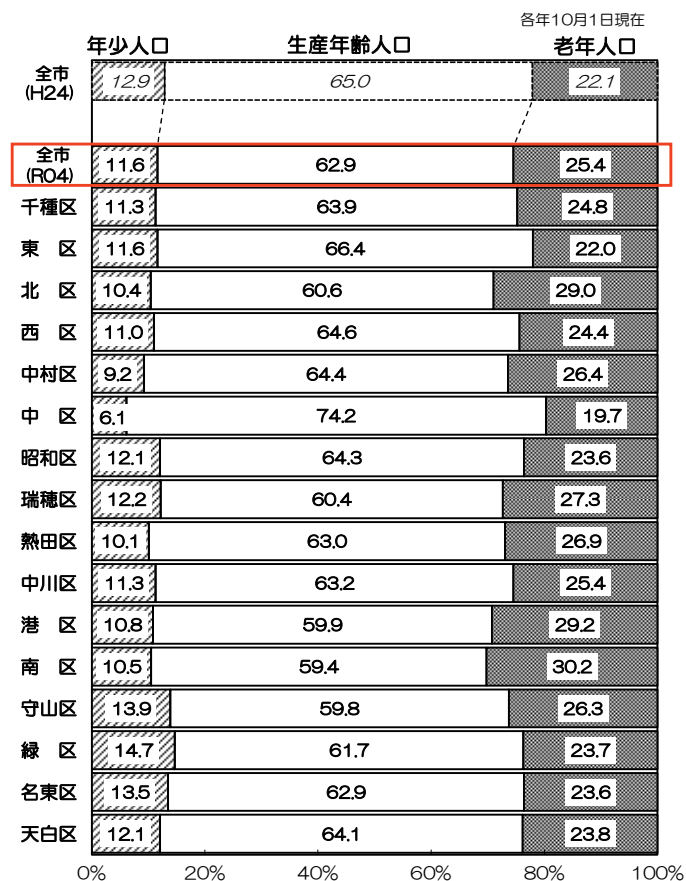
中区はじめ
12区で社会増

名東区はじめ
4区で社会減

（注）社会増減数には、市外との移動のほか、市内区間移動及びその他の増減（職権による記載または消除等による増減）を含む。

6 年齢構成（本編 p17）

区別年齢3区分別人口比率



（注）平成 24 年は年齢不詳を含まない人口総数を分母とし、令和 4 年は国勢調査結果確定値（不詳補完値）を基礎として推計している。

令和 4 年 10 月 1 日現在
年齢 3 区分別人口比率

**年少人口比率（14 歳以下）
全市 11.6%**

（10 年前より △1.3 ポイント）

緑区が最も高く、中区が最も低い

**生産年齢人口比率（15～64 歳）
全市 62.9%**

（10 年前より △2.1 ポイント）

中区が最も高く、南区が最も低い

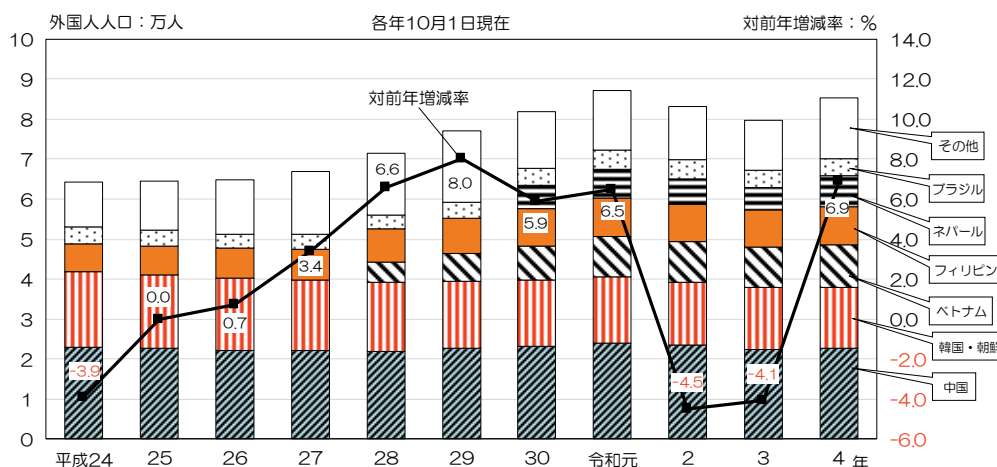
**老年人口比率（65 歳以上）
全市 25.4%**

（10 年前より +3.3 ポイント）

南区が最も高く、中区が最も低い

7 国籍・地域別外国人公簿人口（本編 p19）

国籍・地域別外国人公簿人口及び対前年増減率の推移



（注 1）ベトナムについては、平成 27 年以前は「その他」に含めて記載している。

（注 2）中国については、平成 27 年以前は台湾を含めた数値で記載している。平成 28 年以降は台湾を「その他」に含めて記載している。

（注 3）ネパールについては、平成 29 年以前は「その他」に含めて記載している。

令和 4 年 10 月 1 日現在
公簿上の外国人人口

85,269 人

（前年比 +5,511 人）

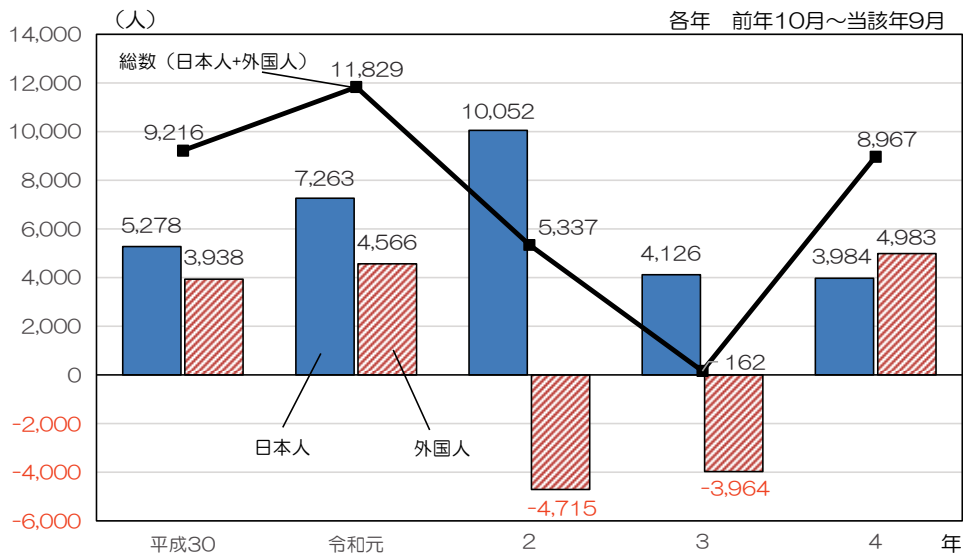
国籍・地域別では、
中国が最多の 22,720 人で
外国人人口の **26.6%**を
占める

前年からの増加数は

ネパールが +2,294 人と
最大（増減率 **+42.2%**）

8 社会動態の日本人・外国人別集計（本編 p20）

社会増減数の推移（平成 30 年～令和 4 年）



令和 4 年
外国人社会増減数
4,983 人の社会増
（前年比 +8,947 人）

令和 2～3 年に比べ
**外国人が
社会増に大きく
転じた**